

2020年度  
学校だより  
第1号

# しもね

牛久市立下根中学校  
令和2年4月6日  
文責 校長 本橋和久

## 令和2年度～共に学び共に育つ楽しさを実感できる学校に

新型コロナウイルスの影響で令和2年度は異例のスタートとなりました。3月2日（月）からずっと、生徒の皆さんには自宅学習をお願いしてきました。保護者の皆様にはお子様の食事の用意や健康管理等に大変なご苦勞をおかけしてまいりました。これまでのご対応に心から感謝申し上げます。それでもまだ4月の時点で状況は改善されておらず、牛久市は4月19日（日）までの休校を決めました。生徒たちの安全と健康を守るための措置であることをご理解いただき、引き続きご協力をお願いしなければなりません。

今年度も下根中学校は「共に学び共に育つ楽しさを実感できる学校」を教育目標に掲げ教育活動を進めてまいります。我々教職員のミッションは「すべての生徒が自分の力で幸せになれるようにすること」です。そのために、協働的な学び（アクティブ・ラーニング）とケアリング（相手をリスペクトしたり気遣ったりすること）の考え方を47名の全教職員が共有し、すべての学年・学級・教科に適用していきます。生徒たちに「社会や生活で生きて働く力、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力、学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」を身に付けさせるために、保護者や地域の皆様と私たち教職員が同じ方向を向いて協働していきましょう。どうぞよろしく願いいたします。

## 第1学期始業式 4月6日（月）～今改めて問い直す「学校とは？」

新任式と第1学期始業式を時差登校により第3学年、第2学年の順に実施しました。新任式で4名の新任者を紹介した後、始業式で生徒の皆さんに次のような話をしました。

私たちにとって学校とは何か。休校が続く今だからこそ、改めて問い直してみたい。私たちは何かを失って初めてその存在意義を意識するものです。皆さんにとって学校とは何ですか。私の答えは、学校は「人」ということです。学校は人と人が出会う場、人と人が交流する場、人と人が学び合い高め合う場、自分がしたことで相手が幸せになったことを自分の幸せのように感じる場、ではないか。生徒たちのいない学校は単なる建築物に過ぎず、本来の「学校」ではありません。皆さんはどのように感じているのでしょうか。本来の学校が戻ってくるまでの間に皆さんにお願いしたいことは、健康や安全を自己管理すること、一日も欠かさず学び続けること、自分を見つめ直すこと、の3つです。私たち教職員も学校再開の日をイメージして準備を進めています。皆さんも新しい学校生活を想像してみてください。

## この難局を乗り切るために ～ 今、私たちにできること

私たちは基本的に文部科学省の通知やガイドラインに沿って、学校における感染拡大防止対策をとっています。具体的には、密閉・密集・密接（3つの密）を避けるために、2方向から換気をする、マスクを着用する、机の向きを同じにする、手洗い・うがいを徹底するなどです。供給が不足しているマスクについては、代替紙（キッチンペーパー等）や布で作る方法、ハンカチやバンダナ等の既製品で作る方法も公開されています。本校のホームページにも例を掲載しました。学校はストッキングで作る「耳が痛くならない輪ゴム」を用意しました。このゴムさえあれば、緊急時にはハンカチやバンダナ等の布で簡単にマスクが作れます。キッチンペーパーマスクの材料も用意してあります。ひとりひとりが高い意識をもってこの難局を乗り切りましょう。学校も教育委員会と連携して新しい情報を発信していきます。